

# 竹とふれあった はる なつ あき ふゆ

東部保育園には、ありがたいことに竹林があります。

竹林と子どもたちや職員とのふれ合いが、年間を通してさまざまなことができましたので紹介します。

**はる** たけのこがよきよきと生えてきたことを、子どもたちが「たけのこができてよ〜」と教えてくれました。職員が鎌でたけのこを切り、取りやすいところにとら子どもたちに採ってもらいました。とれたたけのこを、給食でたけのこはん・筑前煮にしてみました。柔らかくておいしかったです。



**なつ** 竹林の中になちよろがいと子どもたちの中で噂になっていました。竹林にはなるべく入らない約束になっていますが、子どもたちの発見や、小動物と触れ合うことも経験させてあげたいと考えていました。たけのこも生きていることを子どもたちに知らせたところ、竹林の端っから、たけのこを踏まないようソロソロリと入っていく姿がありました。見事、かなちよろを捕まえて満足していた子どもたちです。



**あき** 来年もおいしいたけのこが育つよう、大きくなった竹を伐採しました。その竹や笹の葉を見つけて家づくりが始まりました。「ここはこうしたほうがいいんじゃない?」「これはこっちがいいよ」など、年長児同士で知恵を出し合い家が完成!!うれしそうに中に入り喜んでいました。根強いたけのこが、竹林の隣の畑にまで侵入していました。このままでは野菜が育たなくなると危機感を感じました。そこで、職員が力を合わせて土を掘り、根っこを止めるシートを埋めました。秋なのに、職員の額からは汗・汗・汗。これで畑は守られました!



**ふゆ** 12月にあった発表会では、竹を使ったバンブーダンスと、土台も太鼓もパチも竹で作った竹太鼓で子どもたちが発表しました。カンカンという音を響かせながら、子どもたちの笑顔もステキに響いていました。



興道東部保育園  
米沢市下花沢3丁目10番9号  
TEL 0238-23-6624

# みんなのもうひとつのおうち

No.22  
2021.3.1



## 「いつもありがとう!」

保育園には、保育士と一緒に子どもたちの育ちを見守り支えるたくさんの方の目と手があります。感謝の気持ちでお話を聞いてみました。

〈主事 山口揚嗣さん〉

事務室での仕事を中心となりますが、時間を見つけては子どもたちの輪に混ぜてもらい、同じ時間を過ごしています。子どもたちと関わる上で、「自分の言葉で話す」ことを大切にしています。毎日たくさんの方の事を吸収し、お兄さんお姉さんへと成長していく姿を間近で見れることに驚きや幸せを感じるとともに、私自身も奮起させられます。私にとって子どもたちと過ごす時間は、何よりも楽しく素敵な時間です。



〈看護師 奥山裕子さん〉

保育園看護師の仕事は、元気な子どもたちの日々の健康を見守ることです。感染症が流行する時期に手洗いうがいのお話をしたり、虫歯予防週間には歯磨き指導をするなど、園生活の中で衛生習慣を身につけてもらうお手伝いをしたりしています。お友だちがケガした時に私に教えに来てくれたり、熱が出て保健室で休んでいるお友だちを心配して様子を見てくれたり、そんな優しい子どもたちに、たくさん元気をもらっている毎日です。



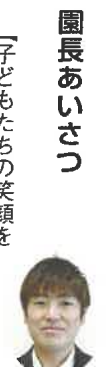
〈給食 島真可奈子さん、遠藤光広さん、草刈めぐみさん〉

東部保育園の給食は、子どもの育ちに合わせた栄養たっぷりの給食を提供できるよう、旬の食材を意識し子どもたちが食べやすい工夫をしています。ランチルームと給食室が隣接する作りになっているため、子どもたちから給食室の様子がみられるようになっています。子どもたちからの「おいしい!また作ってね」の声が、何よりの活力です。これからも、子どもたちの心と体を育てる給食づくりをしていきたいと思っています。



「子どもたちの笑顔を守るために一丸となって」  
経験したことのないコロナウイルスへの対応に追われる中、とても大切なことに気が付かされた一年でした。ある調査によると、「お母さんの約八割がコロナ前より、「人とのつながりを大切にしたいと思う」との結果でした。  
接触を減らし距離を保つ・そんな制限の中、ある葛藤が起こりました。接触を減らすことと私たちの意図とは真逆に、子どもたちは温もりを求めてきます。「人を思いやる心」「人や自分を好きになる心」は自分の思いを受け止めてもらえた「温かい経験」の中で育つ宝物だと思います。  
感染症対策に努める大人の事情と、温もりを求める子どもたちとの「はざま」の中で子どもたちのそんな気持ちを想うとき、制限の中でも温かい保育を忘れない大切さを強く感じたのでした。  
密を避けられない保育現場において、当園の職員は「子育て・家族の介護・持病」などを抱えながらも「どんな時も想いを受け止めてあげたい」と、子どもたちの笑顔を守るため懸命に「丸」となるプロの保育者の姿がありました。その光景を見て、これからは温かい保育を当園の「心」として職員みんなで手をつなぎ支え合えば、きっと「どんなことでも乗り越えていける」・・・そう感じて温かい涙がにじんだ令和二年でした。

園長 藤戸 孝司



今年度は、今までの保育、行事の見直しをし、コロナ禍の中で子どもたちが健康、安全に過ごせるように配慮しました。本号で紹介したように、子どもたちが毎日元気に保育園に来てくれて、園生活を通してすくすくと成長する姿を実感することができて嬉しく感じます。これからも、子どもたちの育ちをしっかりと支え見守っていききたいと思います。

今年度は、地域における公益的な取り組みである「はらくっちゃん」を開催できず残念でしたが、コロナが終息し再開できる日を心待ちにしています…。

本号の発行にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝致します。



編集後記



# あふれるほどの たからもの！！

～ わくわくすることまってるよ ～

## あふれるほどの たからもの

わくわく、どきどき、たのしい、くやしい、うれしい、がんばるぞ！…子どもたちの気持ちを大きく育ててくれる行事。その育ちが大切なたからものです。今年もさまざまな行事の中に、また、日々の生活の中にたくさんのたからものができました。子どもたちの笑顔が、大変なことに立ち向かう勇氣と力をくれました！

### こうめ組 (0歳児)

#### 発表会

#### 「かわいいどうぶつ村の子どもたち」

大好きな保育者のもとで安心して自由に遊ぶことができるようになった子どもたち。絵本を読んだり手遊びをしたり…。たくさんの遊びの中で、「ワンワン」「ニャーニャー」と犬や猫を見つけ指さす姿、「ぴよぴよん」うさぎになってとびはねる姿も見られました。発表会当日まで存分に楽しんで、いざ本番。お兄さんお姉さんの前で緊張の面持ちでしたが、かわいいどうぶつに変身して「ワンワン！」お返事も「は～い！」と、手をあげる姿があり、成長を感じたひとコマでした。



### うめ組 (1歳児)

#### 「まねっこ運動会よーいどん！」

園庭で、運動会の練習風景を見ていたうめ組さん。幼児組さんがゴールに向かって走る姿を見ると、その後ろをワーッと声を出して、みんなで走って喜んでいました。「よーいどん！」のかけ声もばっちりです。

大玉転がしを真似して押してみますが、ボールの重さに子どもたちの方が転がされそうになることも・・・「よいしょ、よいしょ」とみんなで押す姿がとてもかわいらしかったです。運動会が終わった後もしばらく子どもたちと運動会ごっこを楽しみました。



### もも組 (2歳児)

#### 「おさかなさん、ありがとう」

園長先生に子どもたちの目の前で鮭をさばいていただき「鮭のちゃんちゃん焼き」をしました。実際に魚を触ったり匂いを嗅いだりしました。普段見ることができない光景に釘付けになり、「血が出た」、「かわいそうだね」と魚を心配する姿が見られました。「お魚は給食さんがおいしいごちそうにしてくれるんだよ」と伝えました。ちゃんちゃん焼きになった魚を見て「園長先生、切ったんだよね」と思い出しながら食べていました。なかなか経験することのできないことを通し子どもたちが自ら肌で感じ命の大切さに気づくことができ嬉しく思いました。



### はっぴー

#### 幼児組 縦割りチーム

#### 「みそ汁クッキング」

チームで楽しいことしたいね、と問いかけると「クッキングしたい～！」という子どもたち。何を作るか話し合いをすると、たくさんアイデアを出している子の中にだんまりしている子が。保育者に「好きな食べ物はな～に？」とこっそり聞かれると「おつゆが好き」とのこと。その言葉にみんなの「いいね～！」が合わさり、みそ汁クッキングをすることになりました。いい匂いを園中に漂わせ、すごくおいしいみそ汁が完成しました。完成したみそ汁のいいことっ！！その経験から、「はっぴーチームと言ったら～みそ汁だよ！」ということで、発表会ではチームでみそ汁の具になりきってオペレッタを楽しみました。



### ぷりきゅあ

#### 「竹だいこ」

園庭の竹を使って歌を歌いながら竹を叩いて遊び始めた子どもたち。そこで、発表会に向けてチームで竹太鼓を発表することにしました。太鼓をたくパチも自分たちで竹を切って作りました。

どんな曲に合わせて竹太鼓をするか、みんなで相談すると「千本桜がいい！」と曲も自分たちで選び、やる気満々で練習スタート！！太鼓の叩き方は、年長さんがお手本を見せてくれ、曲に合わせてみんなで練習しました。発表会当日は、緊張しながらもみんなで息を合わせて、カッコいい竹太鼓を披露することができました。



#### 「だんごの木飾り」

「団子の木飾り」の由来を聞いてからチーム活動を行いました。ボールの中の白い粉に水を入れると、あら不思議!!オレンジ色に変わり歓声が沸きました。「かきみたいだね」「あかときいろのいろがはいってる」と良く観察していたり、自分の丸めた団子を見せ合いながら喜んでいました。飾りも丁寧に「きれい」「いいね」とみんな満足そうな表情。チーム活動をしていく中で、「信頼関係」が深まり、年下の子と年上の子の関係がなんだか本気の兄弟関係のようになっていきます。また、自分の感じたことや思いも自由に表現している姿は「安心感」があるからだと感じます。



### どりる



### たからじま

#### 「干し柿づくり」

～甘くなあれ！！～

毎年恒例の干し柿づくり。「渋柿の渋とは何か？」実際に「渋さ」を味わってから始めました。柿の皮剥きは、まずはクッキング経験者の年長児が中心に行っていました。その様子を隣でじっと見つめる年少中児。むやみに手出しはしません。年長児は、自分の番が終わると自然と手伝いに回ります。同じ目線になり、「上から下だよ。ゆっくりね！」と言葉をかけながら手を添え、なるべく自分の力でできるようにと手助けする姿が見られました。年下の子たちの「やりたい！」の気持ちが分かる年長児。その気持ちを受け止めてもらい、出来上がった喜びを感じる年少中児。その関係性がとても嬉しく頼もしく感じた時間でした。

